

とか・いなか構想 (都会+田舎)

雇用創出
待ったなし!

「デジタル田園都市構想」と 高齢化の現状をどう捉えるか

龍ヶ崎市議会議員 大竹のぼる



とか・いなか構想、デジタル田園都市構想は
豊かな環境を維持しながら

あつたらいいな!

スマート農業!

ドローン配送!

を、デジタルトランスフォーメーション (DX) で実現します

タクシー相乗りアプリ・AIバス (Maas)

仕事・通勤環境の改善!

電子申請で楽ちん!

市民のみなさんへ

市民のみなさん、当市は、東京都心から約45 kmの位置にあり、常磐線最速44分、当市の面積79.75 km²のうち農地42.45%、山林8.1%であり、大地のほぼ半分が水と緑の田園都市と呼ぶにふさわしい地域であります。昨年、岸田内閣でスタートした「デジタル田園都市国家構想」は、デジタルイノベーション（アナログをデジタル化することで利便性を生み出すこと）で、経済/生活/幸福のポジティブサイクルを回す一連の政策のことです。

わたくしのまちづくり構想は、自然と人の共生をテーマに、**とか・いなか**（都会+田舎）構想を打ち出し、そのキーワードを「1健康志向、2環境志向、3教育志向」としました。3つのキーワードで現状を分析し、時流にあるファスト・タウンをほどよく残し、ゆったりとした自然環境、豊かな地力・知力の中にデジタルの技術を活かしたスロータウンとの調和のとれた**まちづくり**にしなければなりません。なぜなら、確かに大都市は便利だが生

活に満足しているわけではないと思われる。地方で楽しく幸せに暮らせればそれに越したことはないという幸福感の必要性もある。

私の議会活動は、**とか・いなか**構想を掲げ、当市の**人口減少**並びに**超高齢社会**の時代背景のもと、市財政に及ぼすものの一つに**個人市民税**があります。だから、「龍ヶ崎市らしい地方創生による**働き盛り層の創出**」を最重要課題と認識し、駅周辺のスマートシティ化・スマート農業・プラチナタウン構想、そしてカーボンニュートラル（2050年ゼロカーボンシティ）を始め、持続可能な龍ヶ崎市の構築を提案してきました。

令和4年3月第1回定例会にて、龍ヶ崎市が「デジタル田園都市国家構想」のモデル地区になるためのアプローチについて。6月の第2回定例会では、デジタル田園都市国家構想の実現に向けて、地方の課題を解決するためのデジタル実装について質問いたしました。

●大都市の仕事と豊かな暮らしを両立する

デジタル田園都市国家構想の成功の鍵は

1. 人の一生涯の暮らしや生きがいと、地域の新たな産業をデジタルでフル・サポート。
2. そのため、国、自治体、市民、大学、産業など関係者の力を将来像へ総動員。
3. 社会活動に必要な機能をまとめ、マチの見直し。
4. 参加する関係者が合理的根拠に基づく政策立案し、改善の有無を検証し、取組の方向性を確認。
5. 構造化されたデジタル共通基盤（インフラ、データ連携基盤、公共サービスメッシュ）の整備・浸透。と記載されています。

●デジタル化というと難しい様に思われがちだが

どうですか、戦後、電化製品や車の普及で便利になりましたよね。デジタル化は、もっと合理的に効率よく便利に、普段生活している皆様全員が使える細かなサービスも含めて実現を目指しています。

例えば…

* 行政の申請がみんな手書きで大変だ。

いや、ネット申請で自宅からでも楽々申請！

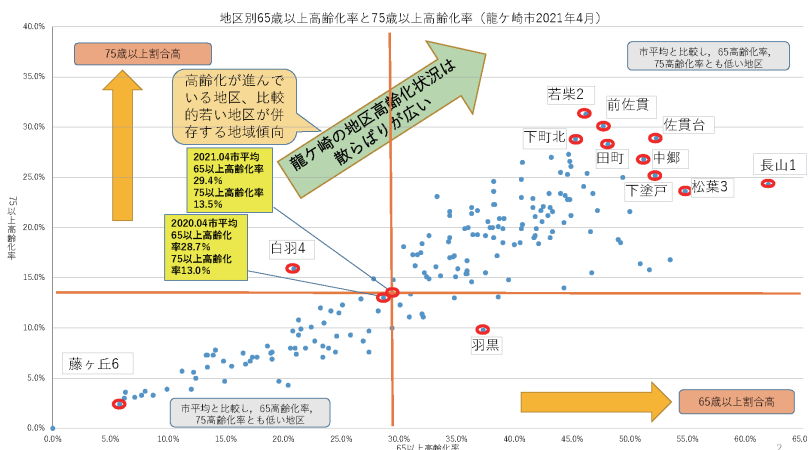
* 田や畑に肥料を撒くのが大変だ。

ドローンで米の種まきばかりか肥料もまきます。

* タクシーに1人で乗ると料金が高いなー。

相乗りできる人探しアプリ！（MaaS）など新しい単語や横文字が多くて分かりづらいこともありますが、ドラえものの道具のように「あったらいいな！」を実現してくれます。

●高齢化の現状をどう捉えるか



龍ヶ崎市の高齢化率は30.2%
県内29位ですが、地区によって、
高齢化状況は散らばりが広い。

上記の図は、横軸に65歳以上、縦軸75歳以上で各行政区の高齢者の割合をプロットしました。龍ヶ崎市の2020年の高齢化率は29.2%、県29.8%、国28.7%です。高齢者は、2030年までには24,000人以上、2040年頃には25,000人に達する見込みです。その頃には総人口の60,000人台になる見込みですから、龍ヶ崎市も40%は他人ごとではなくなっています。

次に令和3年10月のデータで、茨城県44の市町村で、高齢化率の高い順位は、1位大子町48.1%、2位利根町47.4%、3位河内町40.5%、7位稻

敷市38.1%、14位取手市35.2%、29位牛久市30.2%、龍ヶ崎市も同順位。31位土浦市30.0%、44位つくば市20.2%、当市は、東部地域の一部を除き他の南部地域、西部地域、北部地域は**超高齢社会**に突入しています。

高齢者層の健康維持、特に74歳以下の高齢者、そしてそれに続く年齢の方々の健康を担保しながら地域をどう維持していくか。

高齢者問題は政策の大きな課題であると同時に、解決の為にデジタル田園都市国家構想による雇用創出が待ったなしなのです。

大竹のぼる

〒301-0837 龍ヶ崎市根町 781-2 TEL・FAX0297-62-8383 携帯電話 090-2941-6881
オフィシャル Web サイト <https://noboru-otake.jp/> メールアドレス noboru-o@star.ocn.ne.jp
【大竹のぼる後援会】会長 田村純男 〒301-0018 龍ヶ崎市米町 8829-2 FAX0297-62-9372